

日薬連発第 060 号
2024 年 1 月 31 日

加 盟 団 体 殿

日本製薬団体連合会
環 境 委 員 会
委員長 林 哲人

第 4 回 日薬連 環境セミナーのご案内

平素は日本製薬団体連合会（日薬連）の活動に格別のご理解ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

日薬連環境委員会では、地球温暖化対策、省資源・廃棄物対策をはじめとする環境問題に業界として積極的に取り組んでおり、このたび「第 4 回 日薬連 環境セミナー」を会場とオンラインによるハイブリッドで開催する運びとなりました。奮ってご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

記

1. 開催日程
2024年2月21日（水）13時00分から（会場受付開始：12時30分）
2. 開催形式
会場とオンラインによるハイブリッドセミナー
(1) 【会場参加：50名まで】
会場では演者と直接質疑応答が可能です。
※受付開始時間前はお待ちいただく場所がありませんので、受付開始時間に合わせてご来場ください。
(2) 【WEB参加：1000名まで】
MS Teams ライブイベントによる配信を予定しており、傍聴のみとなります。
3. 開催会場
日本橋ライフサイエンスビルディング 10階 1004会議室（別紙1参照）
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2丁目3-11
<https://www.nihonbashi-lifescience.jp/#access>
4. プログラム
別紙2参照
5. 参加費及び参加申し込み
(1) 参加費
無料
(2) 参加申し込み
お申込み期限：**2024年2月14日（水）23:59まで**
「講演会等受付システム (<https://www.praise-net.jp/pn/m/semi/top.asp>)」
から、お申し込みください。

<申込操作の説明>

- ・ PRAISE-NET に登録されている方
PRAISE-NET にログイン後にお申込みいただくと便利です。
- ・ PRAISE-NET に未登録の方（/東薬工、関薬協、製薬協未加盟の方）
メールアドレスを入力し、送信ボタンを押して下さい。
各位の参加形式は、ご希望により【会場参加】あるいは【WEB 参加】の画面からそれぞれお申込をお願いします。また、ご質問・ご意見が有る方は、お申し込みの際に合わせて記入欄にご記入ください。

(3) 【会場参加】をご希望の方

当日、印刷した受講票を必ずご持参下さい（スマホ等の画面を見せていただいても構いません）。

なお、【会場参加】希望者が多数の場合は会社ごとで人数制限（【WEB 参加】に変更）させていただきますこと、ご承知おきください。

(4) 【WEB 参加】をご希望の方

当日までに配信される視聴用の URL へアクセスして、ご参加ください（受講票の提示不要）。

6. セミナー資料の入手

申し込みをされた方には、セミナー前日までにセミナー資料を格納したサイトの URL をメールでご連絡いたします。所定のサイトからダウンロードして、ご準備ください。

7. 問い合わせ先

日本製薬団体連合会 環境委員会事務局 (kankyoku-jimukyoku@fpmaj.gr.jp)

東京都中央区日本橋本町 3-7-2 MFPR 日本橋本町ビル 3F

電話：03-3527-3154 FAX：03-3527-3174

この案内は日薬連の環境委員会ホームページにも掲載します。

<http://www.fpmaj.gr.jp/about/committees-list/committee/environment/seminar/invitation.html>

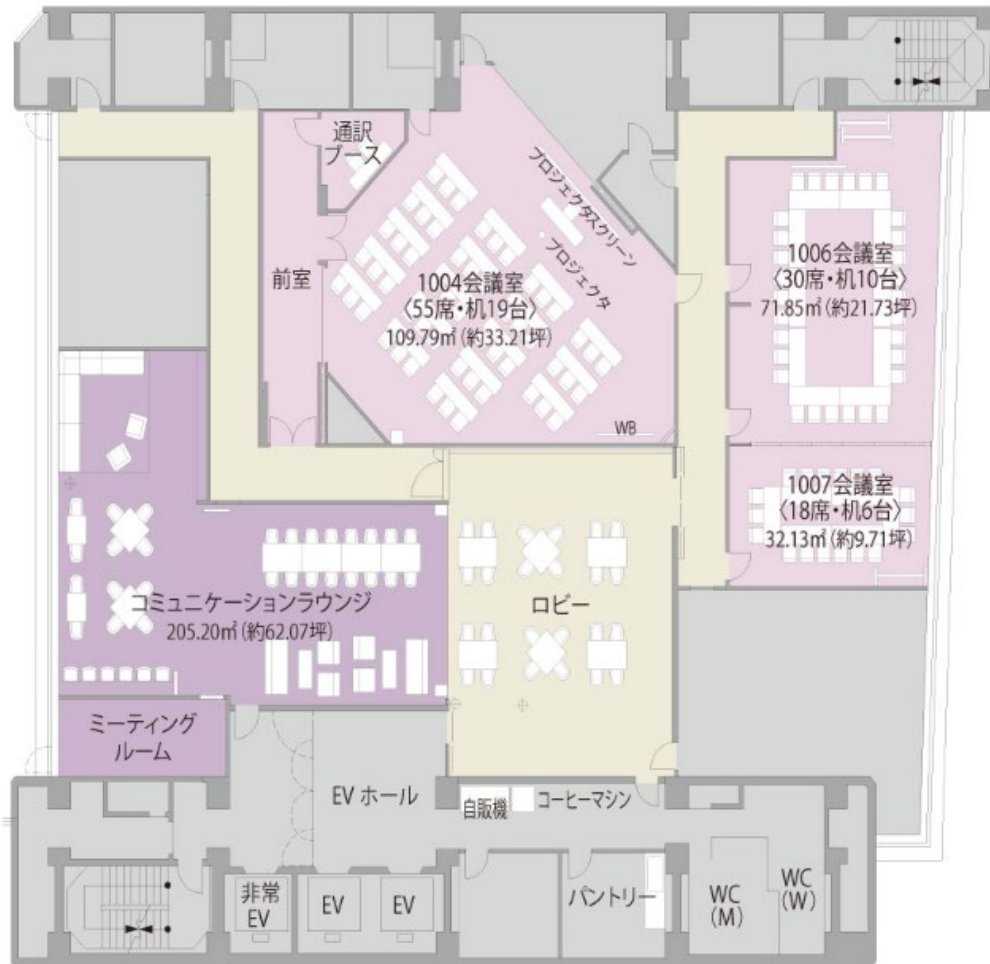
別紙1)

会場案内

<https://www.nihonbashi-lifescience.jp/conferenceroom/>

日本橋ライフサイエンスビルディング 10階フロアー

1004会議室



別紙2)

第4回 日薬連 環境セミナー プログラム

13:00~13:05 諸事項説明

13:05~13:10 開会の挨拶 環境委員会 委員長 林 哲人

13:10~13:30 「日薬連カーボンニュートラル行動計画の取り組み」

日本製薬団体連合会 環境委員会 カーボンニュートラル行動計画 WG リーダー 須田 篤志
製薬業界は、経団連のカーボンニュートラル行動計画（旧：低炭素社会実行計画）に参画し、工場や研究所をはじめ、営業車両やオフィスでも様々な地球温暖化対策に取り組んでいます。日薬連のカーボンニュートラル行動計画について 2022 年度の実績や、2030 年目標に対する進捗状況等についてご報告します。

13:30~13:50 「日薬連循環型社会形成自主行動計画の取り組み」

日本製薬団体連合会 環境委員会 循環型社会 WG リーダー 西多 亮介
資源循環の向上による廃棄物の削減と省資源化により環境負荷低減を目指す「経団連循環型社会形成自主計画」に日薬連は参画しており、その概要についてご説明します。その後、日薬連における「循環型社会形成自主行動計画」の取り組み状況と、2023 年度フォローアップ調査結果についてご報告します。

13:50~14:00 休憩

14:00~14:50 「タケダの環境負荷低減を目的とした活動の紹介」

武田薬品工業株式会社 光工場 EHS 室 課長代理 植田 薫様
SCM 部 ジャパンアートワークコーディネーションヘッド 野々村 浩二様
当社は、製薬会社として国内で初めて廃棄物処理委託による PTP 包装廃材の再生利用、および輸送手段のモーダルシフトを始めました。循環型社会への貢献に加えて、CO2 排出量の削減も目指す包括的な取組みを広く展開頂けるよう、自社事例をご紹介します。また、2024 年 1 月からは二次包装に使用する印刷インクについて、特色インクから CMYK インクへの切り替えを始めました。サプライヤーにおけるインクの使用および廃棄量、さらには洗浄用溶剤の削減につながるこの取り組みについてもご紹介します。

14:50~15:40 「製造業者の Scope3」

株式会社サステナビリティ会計事務所 シニアコンサルタント 養谷 高史様
製薬会社各社は現在、Scope3 をどのように測定し、サプライヤーエンゲージメントを含めどのように Scope3 を削減していくかなどの方法に苦慮している。ここでは製造業者の Scope3 の課題からはじめ、一部製薬または化学製品メーカーなどに特化した内容をカバーします。現状の集計に問題を感じているかたや、これから測定しようとしている企業も役立つ情報の共有を行います。

15:40~15:50 休憩

15:50~16:30 「拡がりゆくサステナビリティアジェンダと企業により求められる対応」

EY ストラテジー・アンド・コンサルティング サステナビリティ室長 パートナー 尾山 耕一様
カーボンニュートラル目標の達成に向け、企業には省エネ/再エネ導入による GHG 削減を一層加速させていくことが求められています。また ISSB/CSRD や TNFD などの国際的な開示制度/基準によって、気候から自然資本、さらにその他へと、対応しなければならないアジェンダが拡大しています。企業には、より深く広く、サステナビリティに取り組みことが求められています。ここでは、これら潮流を概観するとともに、Scope1/2 の削減や自然資本の保護/回復、企業変革に向けた具体的な実行策を、他社の取り組み事例紹介を交えながら解説します。

以上